

## I. はじめに

政府の「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月）文部科学省の「インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成27年3月）及び岡山大学の「インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成29年3月）を踏まえ、岡山大学インフラ長寿命化（個別施設計画）（平成31年3月）を策定済みであるが、この計画をさらに精緻化し改訂を行った。

## II. 個別施設計画とは

- ◆個別施設計画の目的：個別施設計画では、限られた予算の中で最大限・効果的に施設を健全に維持していくための計画を立て、社会の要望に応えることができる、循環型の戦略的な維持管理等を行うことを目的とする。
- ◆計画期間：建物及び基幹・環境整備を2021年から2060年の40年間、建物部位を2021年から2040年の20年間とする。
- ◆対象施設：附属病院及び職員宿舎を除く全建物（350棟、延べ面積約374,000㎡）及び基幹・環境整備

## III. 対象施設の現状把握と課題

- ◆経年30年を超える建物は計画を立てる必要があり、本学においては経年30年を超える建物、割合として全体の23%分の整備計画が必要である。
- ◆経年30年を超える建物の内40%が小・中規模建物（学内経費等で整備すべき建物）であり、建物個別に整備パターンを決定し整備計画を作成すると共に、建物の集約化等を検討し整備費の抑制を図らなければならない。

## IV. 個別施設計画策定の基本的な考え方

1. 個別施設計画の流れ	個別施設計画策定の流れを示す。
2. 建物パターンのイメージ	従来60年型と長寿命80年型のパターンイメージを示す。
3. シミュレーション	従来60年型と長寿命80年型の比較を行った結果、長寿命80年型の方が下がることを確認した。
4. インフラ長寿命化への転換パターン	長寿命化を図るために5つのパターンの設定を行った。
5. 長寿命化へのスムーズな転換	従来60年型から長寿命80年型にスムーズに転換するためのイメージを示す。
6. 転換パターン分類フロー	建物の転換パターンを分類するためのフロー図を作成し分類した。
7. 長寿命化周期及びコスト試算単価	個別施設計画作成にあたり、長寿命化周期及びコスト試算単価を定めた。

## V. 個別施設計画（予算比較）

1. 施設整備費補助金	施設整備費補助金の実績額と個別施設計画（大規模建物＋基幹・環境整備）の差額
2. 学内予算等	学内予算等（施設部管理予算）の実績額と個別施設計画（小・中規模建物＋長寿命化修繕）の差額
3. 環境賦課金	学内予算等の内環境賦課金の実績額と個別施設計画（好循環リノベーション可能な部位）の差額

## VI. 今後の取り組み

- ◆大規模建物整備＋基幹・環境整備に関して、予算確保に努めると共に、将来の改築の大きな波が想定される為新たな対策を計画する必要がある。
- ◆小・中規模建物整備に関して、学内予算等で賄わなければならない建物の老朽化が進んでいるため、集約化を含めた検討を行い大学経営基盤の強化を図る必要がある。
- ◆長寿命化修繕に関して現在運用中の環境賦課金等を利用することで好循環リノベーションを構築しているが、予算確保を図る必要がある。
- ◆長寿命改修により改善された施設を健全に維持して行くために長寿命化修繕を積極的に推進していく必要がある。